

物流事業と不動産事業を通じて 人々の豊かな生活と企業活動を支えています。

三菱倉庫グループは、倉庫事業を中心とする物流事業とビル賃貸を中心とする不動産事業を通じて人々の豊かな生活と企業活動を支える高品質なサービスを提供しています。

倉庫事業

全国の主要港や内陸の交通要地に立地する倉庫・配送センターと輸配送ネットワーク、それらを有機的に結びつける情報システムを活用して、お客様個々のニーズに応じたロジスティクスサービスを提供しています。常温保管の普通倉庫のほか、医薬品・生鮮食品・加工食品等を取り扱う定温倉庫・冷蔵倉庫も充実しており、当社独自の情報技術や先進の設備による安全かつ効率的な保管・流通加工・配送サービスを提供するとともに、グリーン経営の推進による環境負荷低減に努めています。また、太陽光発電装置や非常用発電機等を設置した「災害に強いECO倉庫」をコンセプトに、地域社会との調和を目指した施設展開を進めています。



陸上運送事業

当社グループの菱倉運輸(株)を中心に、各地の優良な運送会社を起用して、全国を網羅する幹線輸送網と地域ごとの集配体制による輸配送ネットワークを整備し、食品・医薬品等の小口積合せ配送を拡充しています。あわせて、輸出入貨物の海上コンテナ輸送、プラント設備等の重量物輸送等、個々の貨物の特性にあわせて多様な輸配送サービスを提供しています。情報技術の活用やグリーン経営推進により、環境にやさしい、安全で確実な運送の実現に取り組むほか、医薬品専門の運送子会社DPネットワーク(株)を展開する高品質な保冷医薬品輸配送サービス「DP-Cool」により、輸送品質のさらなる高度化に取り組んでいます。



港湾運送事業

国内主要港湾（東京・横浜・名古屋・大阪・神戸・博多等）において、コンテナターミナル等での一貫した港湾運送業務を中心に、お客様のあらゆるニーズに対応するよう、きめ細かい高品質な港湾ロジスティクスサービスを提供しています。また、船舶の輸出入、船籍登録や石油掘削リグをはじめとする、特殊船舶の代理店業務等多岐にわたる船舶関連サービスを行っています。



国際運送取扱事業

多様化するお客様の物流ニーズに応えるべく、当社のグローバル・ネットワークと船舶・航空機・鉄道・トラック等、さまざまな輸送手段を駆使して、世界各地のドアからドアへ、お客様に最適なルートでの物流をご提案いたします。また、当社グループ海外拠点における、輸送・通関・保管等の総合的な物流サービスの提供及び各地域の物流に関する法制度・手続きや経済連携協定を活用した関税コストについてのコンサルティング等、海外進出されるお客様の物流面でのサポートを行っています。輸送業務にとどまらず、当社130年以上の歴史の中でつちかかってきたロジスティクスノウハウの世界各地での展開を今後も推進していきます。



物流事業


2020年度
営業収益
構成比


83.2%

営業収益 1,792億55百万円

不動産事業

東京、横浜、名古屋、大阪、神戸及び福岡の6大都市で、所有地の立地に適した再開発等を行い、約50棟・延床面積約100万㎡の不動産施設（オフィス、商業施設、住宅）の賃貸事業のほか、分譲マンションも手がけています。事業継続性を高め、環境負荷を低減する「災害に強い環境配慮型オフィスビル」の開発も積極的に進めています。





営業収益

361億53百万円

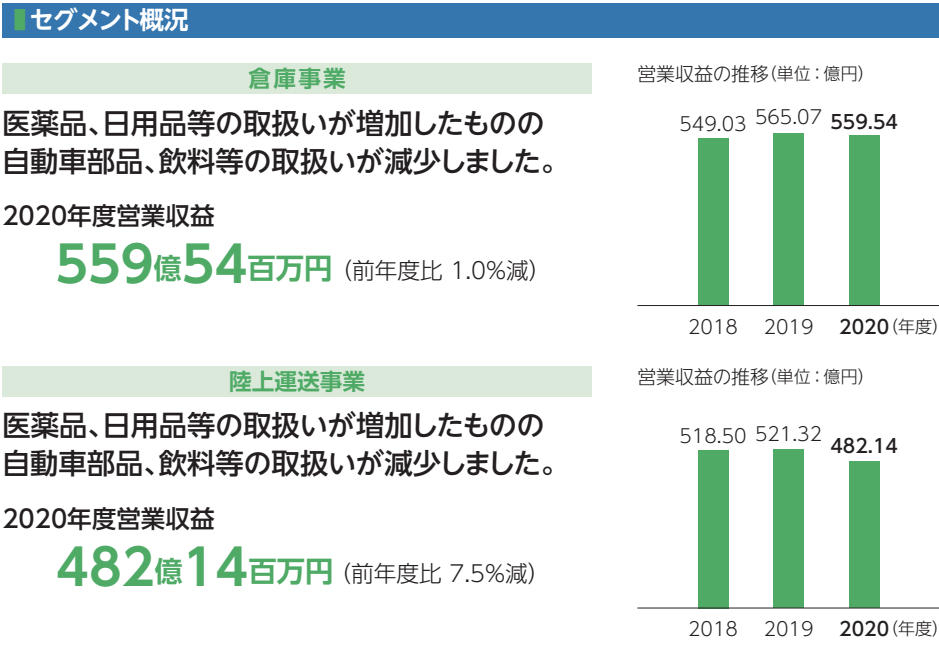
16.8%

物流事業 倉庫事業・陸上運送事業



倉庫事業部長
加藤 栄一

三菱倉庫グループの倉庫事業・陸上運送事業は、食料品・医薬品等の生活必需品から先端産業関連資材に至る幅広い産業のサプライチェーンを担っており、社会経済の発展に貢献することにより成長してまいりました。今後も持続可能な社会の実現と事業成長の両立を目指して、新技術の導入等に積極的に取り組むこと等により、皆さまによりよいサービスが提供できるよう取り組んでまいります。



事業戦略


倉庫事業		陸上運送事業	
新たな物流市場に対応したサービスの充実	<ul style="list-style-type: none">● EC物流への本格的参入及び事業の拡大● 中国・ASEAN等の国内物流を対象とした倉庫事業の拡大	事業環境の変化に対応する輸配送サービスの展開	<ul style="list-style-type: none">● 全国展開したDP-Coolのさらなるサービス向上● 運送業界の健全な発展に貢献する取組みの推進
配送センター業務の収益力及び生産性の向上	<ul style="list-style-type: none">● 利益の最大化を実現する前例にとらわれない投資判断● 新技術活用等による事務・作業の生産性向上	情報システムを活用した新しい輸配送業務の確立	<ul style="list-style-type: none">● AIによる配送ルート最適化とコストの削減● 輸配送業務の見える化による業務品質の向上
社会・環境に貢献する配送センター運営	<ul style="list-style-type: none">● 商品の価値を守る高品質な物流サービスの提供● 国内外における「災害に強いECO倉庫」の展開	陸上運送業務から排出されるCO2の削減	<ul style="list-style-type: none">● 環境負荷の少ない内航船等へのモーダルシフト● 配車効率の向上による輸配送車両の削減

埼玉県三郷市に“SharE Center misato”を開設

2021年7月、三菱倉庫グループが運営する次世代型ECプラットフォームセンター“SharE Center misato”が稼働開始しました。

同センターは、自動搬送ロボット“EVE”やEC物流に特化した在庫管理システム“ロジザードZERO”を導入しており、ECに最適な物流サービスを提供します。

また、同センターは三郷ジャンクション至近に位置しており、お客様の商品の購入者様へスムーズかつ確実にお品物をお届けすることができる配送サービスも提供しています。



物流事業 港湾運送事業



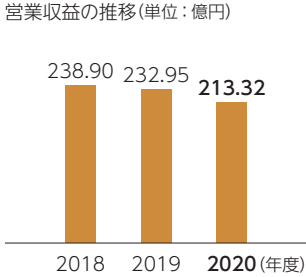
港運事業部長
上田 精二

三菱倉庫グループの港湾運送事業は、国内主要港湾における港湾運送事業を通じ、社会経済の発展に貢献することを第一とし、経済発展とともに成長を続けてまいりました。今後は、情報通信技術を活用した港湾のスマート化及びデジタル化にも注力し、高機能、高効率なコンテナターミナル運営を目指すとともに、持続可能で豊かな社会の実現と、さらなるサービス向上に取り組んでまいります。

セグメント概況

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により取扱貨物量が落ち込みました。

2020年度営業収益
213億32百万円* (前年度比 9.2%減)
*船舶登録、代理店業務等の船舶関連サービスの収益額は含まず。



事業戦略	
国際コンテナ戦略港湾政策への迅速・柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none">●4バース一体運営を実現した南本牧コンテナターミナルのさらなるサービス向上●Cyber PortやCONPAS等の実証実験参加による港湾物流の生産性向上
港運事業部門の事業拡大と競争力強化	<ul style="list-style-type: none">●在来船貨物事業及び自動車船事業の拡大●自営コンテナターミナル（大阪：南港C-9、神戸：六甲C-4）の戦略的運営
ESG経営／SDGs対応に向けた新技術の更なる活用	<ul style="list-style-type: none">●物流プラットフォームを通じた情報共有による環境負荷軽減●洋上風力発電の海底地盤調査船代理店業務及び環境規制国際条約に伴う船籍登録業務の拡大

南本牧コンテナターミナルで「CONPAS」本格運用開始

2021年3月、南本牧コンテナターミナルにおいて、2017年度から国土交通省関東地方整備局とともに各種取り組みを進めてきた、新・港湾情報システム「CONPAS」の本格運用を開始しました。「CONPAS」は、情報通信技術の活用により、コンテナターミナルゲート前の混雑解消や、コンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図るシステムで、今後さらなるコンテナ物流の効率化と生産性向上が期待できます。



不動産事業



不動産事業部長
向井 隆

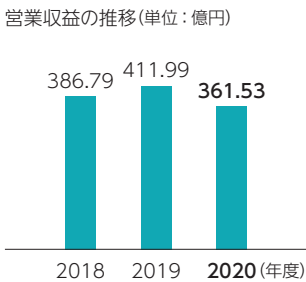
三菱倉庫グループの不動産事業は、よりよい街づくりのために物流用地を有効活用するというコンセプトに始まり、災害対策のノウハウを応用したオフィスビルのほか、商業施設や住宅等、幅広い不動産開発を通じて、社会に貢献してまいりました。

複合用途の街づくりを行い、高い運営力を発揮できる事業者を目指し、今後は既存施設の再開発に加え、他社主体の新規開発へ参画し、開発運営ノウハウ等を獲得していきます。

セグメント概況

新型コロナウイルス感染症の影響により商業施設を休業したほか、マンション販売物件が減少しました。

2020年度営業収益
361億53百万円 (前年度比 12.2%減)



物流事業 国際運送取扱事業



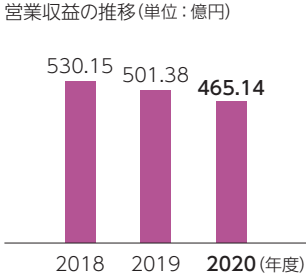
国際輸送事業部長
斉藤 秀親

海上・航空フォワーディングをはじめとした国際一貫輸送業務や、海外でのロジスティクス業務を中心に、お客様のグローバルサプライチェーンに貢献する物流サービスを展開しています。ESG経営／SDGs対応に向けた取り組みでも取り上げている脱炭素化や、急速なデジタル化等、社会・産業構造が大きく変革する中、未来を見据えた提案とサービスを提供することによってお客様への価値創造を目指しています。

セグメント概況

新型コロナウイルス感染症の影響により貨物の取扱量が減少しましたが、後半から回復傾向となりました。

2020年度営業収益
465億14百万円 (前年度比 7.2%減)



事業戦略	
デジタル技術／新サービスの利活用とESG経営／SDGs対応に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none">●FTA/EPAコンサルティングサービス、リアルタイムトレース等新サービスの提供●地球環境に配慮した資材・サービス開発、国際輸送における環境負荷（CO₂排出量）の可視化
Global Grid戦略（点→線→面）	<ul style="list-style-type: none">●ASEAN発、欧米向け／ASEAN域内の海上・航空輸送の拡大●4極（北米、欧州、中国、アジア）でのロジスティクス事業の拡大
「Global Performance Improvement (GPI)」	<ul style="list-style-type: none">●グローバルでのシステム基盤統一または連携による事業競争力の向上●各拠点における業務プロセスの見直し、ベストプラクティスの共有による業務品質の向上

お客様のグローバルサプライチェーン強靱化のご支援

新型コロナウイルスの感染拡大により、グローバルでのサプライチェーンが寸断されるリスクが顕在化しました。三菱倉庫グループでは、海上輸送・航空輸送の柔軟な切替え、シベリアランドブリッジ等鉄道輸送の活用、国内外でのストックオペレーション（全体最適につながる在庫保有）を提案・実施することで、withコロナ、afterコロナにおけるお客様のグローバルサプライチェーン強靱化のご支援をしています。



事業戦略	
複合施設の開発・運営に関するノウハウ獲得	<ul style="list-style-type: none">●2020年「名駅ダイヤメイテツビル」竣工（トピックス参照）●オフィス・商業複合施設「グランフロント大阪」の共有持分を取得●神戸市・三宮「雲井通5丁目地区再整備事業」の優先交渉権者に選定
事業基盤強化と経営効率化に向けた施策実施	<ul style="list-style-type: none">●当社子会社のダイヤビルテック(株)*と名古屋ダイヤビルテック(株)の合併

*当社賃貸ビル管理会社

名古屋市西区内に「名駅ダイヤメイテツビル」が竣工

「名駅ダイヤメイテツビル」は、名古屋鉄道株式会社と共同で開発を進めたオフィスビルです。リニア中央新幹線の開通によりますます利便性が高まると期待される名古屋駅から徒歩4分の好立地にあり、安全性能と環境対応に優れた高品質なオフィススペースの提供を実現したほか、1・2階を地域の皆さまにご利用いただける歩行者通路として整備しました。地域の皆さまに愛され、多くのビジネスパーソンから支持されるワークプレイスとなるよう運営してまいります。

